



東北大学

平成 24 年 5 月 17 日

報道機関 各位

東北大学加齢医学研究所

全国調査における金属アレルギーの現状報告

金属アレルギーは、身近な接触皮膚炎の原因の1つであり、皮膚免疫疾患と考えられている。今回、厚生労働科学研究班（小笠原班、代表：小笠原康悦教授）の松永佳世子教授（藤田保健衛生大・皮膚科学）らは、アレルギー性接触皮膚炎の全国調査を行い金属アレルギーの調査結果を明らかにした。

2010年4月から2011年3月までの1年間、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会会員を対象に調査を行ったところ、依然としてニッケル、クロム、コバルトは金属アレルギーの3大原因金属であること、2010年度金属アレルギーが増加の傾向を示したことが明らかとなった。

この成果は厚生労働科学研究費補助金、免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業、「金属アレルギーの革新的診断・予防・治療法の開発研究 平成23年度総括研究報告書」にて、小笠原康悦教授の総括のもと厚生労働省に報告される。

当研究班では、今後継続して全国調査を行い金属アレルギーの実態把握に務める予定である。さらに、新規診断法や治療方法の開発に向けて、動物実験モデルなどを用いて金属アレルギーの病態解明を進めている。

金属アレルギーの現状を一般に知ってもらい、ピアス、ネックレスなど金属装飾品の接触について注意喚起を促すため、調査結果の公表に踏み切ったものである。

つきましては、成果の内容に関する説明会を下記のとおり行いますので、お知らせいたします。

記

日時 平成 24 年 5 月 25 日 (金) 午前11時から正午(終了予定)
場所 厚生労働省 記者会 会見室
会見予定 松永佳世子(藤田保健衛生大学 教授)
小笠原康悦(東北大学 教授)

以上

<本件問い合わせ先>

小笠原 康悦 (おがさわら こうえつ)
東北大学加齢医学研究所 生体防御学分野 教授
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1
TEL: 022-717-8579
E-mail: imbio1@idac.tohoku.ac.jp

本件は、下記厚生労働科学研究費補助金により行われた。

厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 (代表研究者:小笠原康悦) 平成 22 年度～平成 24 年度

概要説明

金属アレルギーは、ピアスやネックレスなど装飾品や、歯科金属、インプラント治療などが原因でおこる皮膚炎と考えられている。身近な接触性皮膚炎の1つであり、免疫系の細胞であるT細胞が関係する免疫疾患と位置付けられている。

松永教授らは、アレルギー性接触皮膚炎の全国調査を行い金属アレルギーの調査結果を明らかにした。調査期間は2010年4月から2011年3月までの1年間、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会会員を対象に調査を行った。全国75施設から回答があり、アレルギー性皮膚炎のパッチテスト診断においてジャパニーズスタンダード貼付例は1879例あった。

その症例を解析した結果、陽性率第1位は硫酸ニッケルで14.2%、第2位ウルシノール11.5%、第3位は重クロム酸カリウム8.3%、第4位は塩化コバルト7.6%、第6位が塩化第二水銀と金属が上位を占めた。

これら陽性率の年次推移を比較すると、1993年から2009年まで金属の陽性率が僅かながら減少し推移していたが、2010年度は増加に転じた。今回の調査結果から、依然としてニッケル、クロム、コバルトは金属アレルギーの3大原因金属であること、2010年度金属アレルギーが増加の傾向を示したことが明らかとなった。

<今後期待できる成果>

今後継続して全国調査を行い金属アレルギーの実態把握につとめ、一般へ周知することで、ニッケル、コバルト、クロムを含む金属装飾品などの接触に注意することを呼びかけ、金属アレルギーの患者の減少につなげたい。また、ニッケル、コバルト、クロムの金属アレルギーの病態解明を、実験動物などを用いて進めることで、新規診断法や治療方法の開発に繋がると期待される。

<報告書名>

厚生労働科学研究費補助金、免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業、「金属アレルギーの革新的診断・予防・治療法の開発研究 平成23年度総括研究報告書」
主任研究者 小笠原康悦